

最も重要な 産業分野製品の歴史におけるマイルストーン

私たちがライフサイエンス分野向け顕微鏡の製造を始めたのは1919年でした。その10年後、顕微鏡テクノロジーを産業向け製品に応用するようになりました。その後の歴史についてはご存知のとおりです。



1929 MC金属顕微鏡で産業検査の分野に初めて進出

1955 当社初の計測顕微鏡MIマイクロ干渉計がデビュー

1968 医療事業のテクノロジーを活用して、当社初の工業用内視鏡検査 (RVI) 製品であるIFSシリーズを発売



1973 マルチモード測定とスイングセット音速校正機能を備えた世界初の商用超音波厚さ計、モデル5221を発売

1984 世界初の現場用ポータブルデジタル探傷器EPOCH® 2002がデビュー

1988 内部データロガーを備えた世界初の厚さ計22DLを発売

1994 ポータブル超音波探傷器EPOCH IIIにデータロギングおよびファイル管理機能を搭載

└ 当社初のレーザー顕微鏡OLS1000を発売



2001 当社初のポータブル蛍光X線分析計XTを発売

└ 定評あるIPLEX™シリーズビデオスコープがデビュー

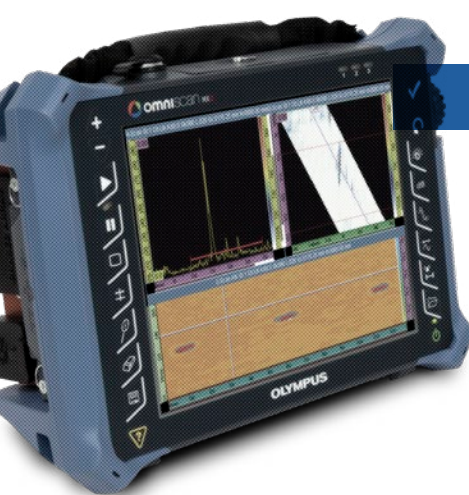


2003 OmniScan®探傷器の発売でフェーズドアレイ機器がポータブル化

2008 X線回折装置BTX®およびTERRA®の発売で、装置がついにベンチトップに収まるほど小型になり現場に持ち出し可能に

2010 ポータブル性、機能性、堅牢性を備えたEPOCH 600探傷器がデビュー

2011 当社で最も売れているポータブルフェーズドアレイ機器OmniScan MX2を発売



2012 DSXシリーズの発売で顕微鏡がデジタル化

2014 渦流探傷器NORTEC® 600がデビュー

2016 IP64/65に準拠する最初のポータブル蛍光X線分析計Vanta™を発売

└ IPLEX NXビデオスコープの発売でHD RVI™が登場

2017 これまでで最も携帯性に優れた超音波探傷器EPOCH 6LTを発売

└ Olympus Scientific Cloud™のサービス開始でつながる作業の新時代の幕開け

